

あて先	各位	自 研 - 351
題名「自治研修あきたNo.61」について (送付)		平成22年8月13日 自治研修所長

発行 平成22年 8月  
 発行者 秋田県自治研修所  
 TEL 018(873)7100

# 自治研修 あきた

No.61



## 研 修 雑 感

秋田県自治研修所長 鎌田 恵子

「おはようございます」この言葉で研修の一日が始まります。さまざまな緑を見せる木々、わたる風、豊かな自然の中に在る自治研修所に、昨年度は、62の講座で1,123人の県職員、793人の市町村等の職員をお迎えしました。

本年度からスタートした「新行財政改革大綱」の基本方針に、職員一人ひとりの意識改革への取り組み、意識・知識・見識(3識)を備えた職員の育成を掲げています。また、庁内の「人材育成具体化WG」からの提言を受け、新規採用職員を即戦力として早期に育成するため、財務や会計などの実務に必要な科目も追加した中期研修を加え、新規採用職員研修の内容を拡充しています。山積する県行政の課題を前に、職員一人ひとりに期待されるものは大きく、そのためにも人材育成は更に重要となっています。

佐竹知事は、新採研修知事講話の中で、自らの体験や実例を交えながら3識について新規採用職員に次のように語りました。

「若いときから自分だったらどうするかという問題意識を持つ。役所の仕事はマルチであり、他のセクションともつながっており、社会人になったからこそ広く知識をどんどん吸収して欲しい。見識は成功と失敗を繰り返しながら会得する「あうん」の呼吸のようなもので、アクションを起こし、その結果磨かれるものである。」

今年度新たに主査を対象として「意識・知識・見識」実践研修を5ヶ月以上の長丁場で実施しています。主査30名が自分の担当業務と並行しながら、政策提案を目指して現在頑張っているところです。研修の中で、県内で頑張っている企業の代表の方々から貴重なお話、行政への意見等を聴く機会がありました。そこには共通するものがいくつかありますが、その一つは「現状維持は後退、常に目標を掲げ、チャレンジしてこそ維持ができる」という危機意識でした。研修生には良い刺激となったようで、目を輝かせていました。この研修を通して、彼らの自発性が更に磨かれ、考え抜く力を育て、グループの仲間と悶々としながらも、何かを作り上げていくことを期待しています。

「ご苦労様でした」と声をかけ、研修所の研修は終わります。どの研修でも、受講後、参加者にアンケートを提出してもらいます。頂いた意見・要望・評価に基づき、その結果を次年度の研修内容や講師選び等に反映しています。

アンケートを読みますと、「この研修を受けて良かった」という言葉を、嬉しい気持ちが伝わるような文字で目にすることがあります。一つの研修で受講生が得るものは決して一つではなく、各人がそれぞれ違う成果を胸に持ち帰っているのでしょう。

仕事上の悩みは誰にもあるものです。  
これからも自治研修所では、皆様の知ることや考えることに役に立つことを目指して、さまざまな研修を提供して参ります。



## 研 修 ル ポ

### 「意識・知識・見識」とも 日本一の県職員を目指して

平成22年度特別研修

「意識・知識・見識」実践研修

主査30人集結し 6月2日 スタート

「意識・知識・見識」とも日本一の県職員をめざすとの、佐竹敬久知事のメールのもと、平成22年度特別研修「意識・知識・見識」実践研修が、6月2日から始まり、各部署長・各地域振興局長の推薦を受けた主査30人が自治研修所に集結しました。

この研修は、有識者の講話や外部講師の講義を参考にし、さらに現地調査などを行いながら約5ヶ月の長期にわたり、「ふるさと秋田元気創造プラン」の5つの戦略に基づき、解決すべき課題をグループごとに設定し、最終的にはその解決のための政策を提案するものです。今号では前半の取り組み状況をご紹介します。

初日の6月2日には、足達雅英総務部長の激励のほか、NPO法人秋田バリアフリーネットワーク理事長の佐々木孝氏（秋田市）や大栄木工社長・能登康成氏（能代市）から県行政への期待について講話をしていただきました。

3日～4日の「考え抜く力養成講座」、「情報収集・分析力向上講座」では、産業能率大学の齋田真一講師から論理的思考法や、創造的思考法、情報の収集・分析などの方法について学びました。

6月7日から9日までの「問題解決力養成講座」では、同大の牧瀬稔講師から、問題の発見・分析のほか、政策立案の方法などについて指導していただくと同時に、グループ研究の実践的な手法も教えていただき、各グループが課題設定するためのステップとなりました。



牧瀬講師の指導のもと、グループ演習をおこなった。

(自治研修所 第一教室)

こうした導入期間を経て、6月10日から29日までは、通常業務の合間に各グループごとに集まり、課題設定の検討を積み重ねて6月30日の課題発表会を迎えました。

### ～ ふるさと秋田元気創造プラン 5つの戦略 ～

産業経済基盤の  
再構築戦略

融合と成長の  
新農林水産  
ビジネス創出戦略

県民参加による  
脱少子化戦略

いのちと健康を  
守る安全・  
安心戦略

協働社会  
構築戦略

## 内陸線・お座敷列車内で課題発表

6月30日、県北・中央・県南の3コースから秋田内陸縦貫鉄道に乗車し阿仁合駅に集合。牧野一彦人事課長の同席のもと、同駅構内に停車中のお座敷列車に乗り込んで課題発表会を開催しました。

普通の会議室とは勝手が違う会場でしたが、研修生からは「県の課題となっている内陸線への乗車は貴重な体験だった」、「お座敷列車内での発表会は記憶に残る研修だった」との声がありました。

ちょうど当日は、同社の株主総会もあり、出席中の堀井啓一副知事からも「現地での見聞は大切」などとの励ましの言葉をいただきました。

(※発表された課題は今後変更されることもありますので、この稿では掲載しません。)

7月7日から9日までの、「知識集中講座」では、中野節副知事からはソーシャルビジネスなどについて、航空機産業の三栄機械社長・齊藤民一氏（由利本荘市）や、農業から観光ビジネスまで展開中の秋田ニューバイオフィーム会長・齋藤作圓氏（同市）からは貴重な体験事例についての講話をして



お座敷列車内での「課題発表会」  
(秋田内陸線 阿仁合駅構内)

いただきました。また、フードコーディネーターの田中徳子さん（横手市）や秋田内陸縦貫鉄道社長・若杉清一氏（北秋田市）からは食や観光資源に関するお話をしていただきました。マスコミ界からは秋田魁新報社論説委員長・佐川博之氏（秋田市）をお招きし、県政に対する意見をいただきました。

こうした講話の情報や講師のアドバイスを参考にして、各グループは7月10日以降、現地調査に出向くなど、問題点の発見や、掘り下げに熱心に取り組んでいます。

普段の業務をこなしながらの長期研修であり、研修生はスケジュール調整に苦勞していますが、今後は、8月31日の中間発表を経て、11月10日のプレゼンテーションでの政策提案に向けて、各グループの研究がますます活発化していくもようです。

※ 今回の研修では、秋田県情報活用支援システムの「電子会議室」を設置しました。職場が異なる研修生同士の意見交換ができる「すぐれもの」として大いに役立っています。

## 今後の研修スケジュール

### 8月

- 19～20日 コーチング
- 19～20日 行政の経営品質向上
- 24～27日 キャリア開発研修Ⅰ①②
- 24～25, 31～9/1 キャリア開発研修Ⅱ①②
- 27日 経営戦略（政策形成と併催）
- 27日 政策形成（経営戦略と併催）
- 26～27日 政策法務
- 26～28日 民間体験（(株)イヤタカ）
- 31日 特別研修「中間発表」
- 31日～9月1日 民法基礎

### 9月

- 2～3日 タイムマネジメント
- 7日 コミュニケーション
- 7日 市町村公会計整備実務後期研修
- 9～10日 プレゼンテーション技術
- 13～14日 幹部組織マネジメント
- 13～14, 27～28日 市町村主事・技師級研修①②
- 16, 17日 ロジカルシンキング①②
- 29～30日 クレーム対応力Ⅰ

### 10月

- 4～8, 18～22, 25～29日 新規採用職員後期研修①②③
- 4～7日 キャリア開発研修Ⅱ③④
- 12～13日 市町村主任級研修
- 14～15日 特別研修「問題解決力講座」③
- 14～15日 折衝力・交渉力向上
- 13～15日 民間体験（(株)秋田魁新報）
- 13～15日 民間体験（丸果秋田県青果（株））

### ▽編集後記

「自治研修あきた」今年度の第1号をお届けします。

連日の猛暑で、エアコンはもとより、熱冷却シートやスポーツドリンクなども売り上げを伸ばしているとのこと。我が家でも、扇風機をもう1台購入しました。

自治研修所は、お盆明けから研修ラッシュ。まだまだ"暑い"夏が続きそうです。

**次回は11月発行予定です**